

〔古今和歌集<sup>十</sup>哀傷<sup>六</sup>〕やまひしてよはく成にける時よめる なりひらの朝臣

つゐに行道とはかねてき、しかど昨日けふとは思はざりしを 勢物語<sup>〇</sup>又見伊

〔大和物語<sup>下</sup>〕この在次君<sup>〇</sup> 中かく人のくに、ありきく、てかひのくに、いたりてすみけるほ

どに、やまひしてしぬとてよみたりける、

かりそめの行かひちとぞ思ひしを今はかざりのかどでなりけり、となんよみてしにけり、

〔吾妻鏡<sup>五十</sup>〕弘長三年十一月廿二日己亥、戌刻入道正五位下行相模守平朝臣時頼<sup>御法名道崇</sup>

於最明寺北亭卒去、御臨終之儀、著衣袈裟上繩床、令座禪給、聊無動搖之氣、頌云、

業鏡高懸、三十七年、一槌打碎、大道坦然、

弘長三年十一月廿二日道崇珍重云云

〔太平記<sup>二</sup>〕長崎新左衛門尉意見事附阿新殿事

五月<sup>元弘</sup>二十九日暮程ニ、資朝卿<sup>〇</sup> 中少モ臆シタル氣色モナク、敷皮ノ上ニ居直テ、辭世ノ頌

ヲ書給フ、

五蘊假成形 四大今歸空 將首當白刃 截斷一陣風

年號年月ノ下ニ、名字ヲ書付テ、筆ヲ閣キ給ヘバ、切手後ヘ回ルトゾ見ヘシ、御首ハ、敷皮ノ上ニ落

テ、質ハ尙坐セルガ如シ、

〔桃源遺事<sup>二</sup>〕同<sup>三</sup> 元祿十一月廿九日、水戸ヘ御下リ被成候とて、江戸を御發駕<sup>〇</sup> 徳川あそばされ

候朝、

我今年致仕歸故郷、仲冬二十九日、夙發江戸之邸、臨別賦詩、遺男九成、文不加點、信口漫道、一笑胡

盧、元祿庚午冬、遁跡東海濱、致仕解印綬、縱作葛天民、盤旋廣莫野、一洗榮辱塵、昔誕首陽薇、今羹吳

江蓴、三十有年來、夙志忽欲伸、予去又何處、不知再會辰、嗚呼汝欽哉、治國必依仁、禍始自闔門、慎勿